極秘

[illegible]

[illegible]

[illegible]

椒のあそび

春部

荒木田神主久老

神垣は。神日かづらふ。神垣の神のみづがきぞ。
とこしなへに。
和の歴(ひさぎ)。いや和の神垣。はるけて大川の。
まつ立ふけり。
何ごとやなぞ。椒のあそびとかたらひぞ。
さあ年。まつ立まつりけり。

[illegible]氏の門[illegible]卿饗を
設[illegible]海山[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]酒の[illegible]
[illegible]

[illegible]
神春六日諸君集於予小園一卿設飲饌
于時風雅嘯各為諷詠因以和歌
[illegible]

同日寄梅述懷 潘[illegible]
[illegible]
[illegible]

白馬
[illegible]

とうた。春あきらけさ。

梅を折りて人かたるやう。

まつ色ふかつまび春せ。春のうぐひす。もとある園

のうめの花ざかり。

若草

とを山ふかし。野べのうぐひす。まつ人のつ春日

とぶらひもなるも。

河辺柳

そよ吹風。河そぶ柳の。河柳。みどりもあらく。

もえ初めにけり。

菖蒲東水辺に生ずるなり

野菖蒲。菖蒲のみ。花もつ。野菖

蒲。

三月三日宴于小西園辺歌

たなびくよ。みるものきたるのまく。小西

のその備。まくらをあつ。さくの

うぐひす。ぬぎ。鶯。稲。外

づみと。春の。桃。其。杯。鶯花

を。かをるまくし。春舟。つみあ。せば。

ちくしかく。あそぶ。毎年。かくし

とくに。すぐれて。なの。花の友のなかに。ぞとなるもの。今も
見る如。なりて。世をあるも。

酒辺山吹

山振。やまと。咲けども。大花のみ。いまだ落ず。流れ
の河辺。

振ら。ど喜毒。よりて。ひらけるもの。
茂みと。茂れば。そのもの。花のさかりの。時。押照る。
春風のごとく

唐朝の王人。藤原。是忠。世なれ。世人。
橘村。成の。ものとりて。日ざしの。の

もとに。かがやくなり。父のかたちふるまひて。まさ
に。

桜花。咲ける。なるべいで。の。君。ええ
さぶらん。

人みなの。めの。花。ものの。花。めでて。の。君。ええ
さぶらん。

いろ花。ぞうの。世の中の。花のさかりなる
びそ。ぞ。

なれ。なんて。思いしる。山桜花。

さの方らの西しかはの。高い所。岩さ。なつて。見
川の。山桜花。咲きはじめたらあの又の西しよ。
雪を。なつと。高ごしの。なる。桜花。うとてう物名。
ふるもみる。

花果開

うつろ。ふ。日を。恋せんと。咲。実の。ふげの。桜。
いまだ。ふ。山。

花

かづ。ふ。咲。初る。花の。ふんとを。みるまに。ふ。
桜木。

て。待。ふ。日。人。あり。て。山。年の。一。あ。花。と。れ
ふり。ふ。
春。花。中。かぶ。れる。ふを。山の。山。桜。ふ。
ふ。
春。ふ。京。ま。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。
ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。
ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。
ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。
ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。

第四花

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

社頭花

いとけなるの梢のあるの梅花　[illegible]

[illegible]

[illegible]

吉野花

[illegible]

谷花

山ゐみ。人もの[illegible]谷の[illegible]。[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

咲あへぬ。さくら。梢の。花ちるも。見まくほしき。春の。名ごりを。惜。

みちびとの。ゆきぬ。陸奥の。ぬでんあるを。

ちりぬ。くれなゐ。二つ。

和の。浦。見渡。是。行。山の。端。

美しい。

なみ。そる。花の。梢の。なみ。

いやをちこちの。

花ちるなれば。

さくら。見。

春の。日の。みうとく。

あみ。ひ。そる。大。の。山。細。橋。

ちりぬ。うまぶ。伊達。伊達。

岩の。ほ。見。

咲。かぶ。脳。

うさ。ひ。

工。の。

咲。花。

を。

あ。

うゑすみの春人。

牡丹山の花ーちれる時。音山をつぶて咲也。

ゆうべも今年ー

蓄春

うめ桜同梅花。あそびれく。春なほどなく。

春もけるこのも。

夏部

神祭の。とちゆまりく。若葉のみそもる

卯月まつけ。

卯花

をりつぶ花。国中しぶ吉ふまふ見べのうつぶ。

花見ますけ。

加茂の祭人

かすもく。花のこしたの。松のみあり。

神ぶ成年ぶみん。とぶまぶ人。車ハ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

吾山。ゆくすゑもちぎりぞ。おのがあるを。
姉のめとりける。
素盞のいくさを人を。久しくの。玉垂のいさ
なりけり。
かぼそくからみのみの。ほとゝぎす。夏の。
鳴うしまぎれも。
何とてもこのをしすし。みそひと。ほとゝぎす。
新田ほしき。
月夜を。鶯をたづねて。ほとゝぎす。
今八かうへ。

風をなけ。上ほとゝぎす。聞きぬ。かとゝ寝。
鳥なとり。
あのかた自ゆしたとゝぎす人のとゝ
ほとゝぎす。それなのある。声なのをかの月のとき
過ぬるや。
なもあ
ほとゝぎす。なもあ新田をそ。あの月のみよ
なけ。
新田宮こゝの外とゝ
さ野ありのかぶと。けふ。ゆとゝ。ほとゝぎす。

もろへ。

追舟見月

さてしも五月雨の頃の川辺より暮るゝ人と。
さ舟ぬるの小ふねをけすゝ。玉鉾の山橋さゝぬき。
ゆくるを〳〵もぎこゝみゆけば。猶遠ゝ千ちぐ
義奥。おぬれすゝて。日ごゝろとゝむ日ごゝろの。
呼つるゝ〳〵より多陸月。新のかゝゝひ。夜の月ち
のゝゝみよ。東の山のそゝみゆ。照る月のそや
けく。海のうへより。猶更めもゝゝよ。ゝすゝ。
人みる月。秋の月。めぐゝ〳〵。ぐさゝゝひの秋。

ふ。ゝふ。ゝしのそゝや。
月ぬく。月げすし。望ひらゆう
年。ゝづく月。

夏

ゆゝ夏。郭公。
五月雨ゝし。雷神の音。ゝゝゝ。
五月雨ゝみせ〳〵
月。ぬゝなゝゝ。ぬゝひの。ぬき。川舟。
なゝゝ。
橋のゝよ。新ゝる。新ゝゝ。川の涼

く。厚う加うひぬ。

山陰かぐら天王の。かぐら天の。なごりとそ。

あ嫁ぐ。老山行つの。かぐら天の。なごりとそ。

と。新らしうぞ。

山面の景。よりて。

畑をみなかる。千町の田面。吹くる風のゆくへの。

たとえそぐしき。

夏松

谷川の。河音すごしき。山人の。老てとすまうら。

あとてなし。

長妹。みづ。玉ひめ。みづ。井の。暑さゆ。

なし。

竹うら

稀ぬ。ものの。花の。香をしみ。

よ。立ぬ。れめる。

夏衣

交ぜ。の。ぬ。ぬ。

ぬ。ぬ。

賀茂長。新婚。

風みづやどる。うなる。花の。花の。

[illegible]

夏祝

[illegible]

[illegible]

秋部

[illegible]

秋の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋の[illegible]

六月祓

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

月歌

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

首のあり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋野

八重咲の花を見れば。さてさきぬ秋ふ野辺の。
ものうしなりけり。

をみなへしうらめしう
なるるまれ。やまびこのみるべし。極まるの。
なるらんかしら。

萩

秋萩の花のうつろひを。うらめしう
のこしもあるしきれども。
紅葉を。野の山のうつぬぎ。枝う変

うつぬぎの。

海辺小雪しうてを
海辺ながら。雪ふり
消ぬるを。旅人の。
遠を。
八重咲の。
古の山。
秋の雪。さらに。
声しきりも。
嘆ふ。

旅人の。
消ぬ。
雪ふ。
歌。

蛍の行方し。

月見をみるとて

なのみをぬぎてもるみて。呼ぶ。うさみ。うるさみ

なの。花よりそれも角

をぐるを

まもくたる。尾花が穂。高くまく。秋の山路。

まくひめるも。

初秋。山を下る

那須。ゆけば。ぬ。長のつゆ。早。苔。

表紙ふけり。

原を

今もものも。言葉の弟子。秋をけて。牡。麻。ちろき。ちろ。

さんぎ。行くもる。

月の秋花をもえる

月新。うつくしく。世花の。高の。えるひの。

鳴のも。似る。

もえ。月。侯。賀。あれ。さんぎ。花の。

高ふ。もえる。

八月十五夜月を見る

秋と長雨。さとり。ゆく。月。雨。歌

ら見ていると見はせぬ。人こゝろ見ぬふぎ
うゝぶんゝるゝ。なほもしひさしける。年月の。月の
面影。たゞぎゝしかるらう。それぞれうぶ
ゝ。ゆりぬ。はのゝゝうも。姿もうなはしき。はの〳〵もかくう
ふるれる。こゝろうもおもふごとくぬ。年月ゆのうる
でしらゝゝ。年月さゝひる。
晴ゝゝる月の面影よ。あはれぶんゝ。ぶんるる。
ふひるもおもふる。
人こゝる見。ゝゝを見よ。ゝぶるひゝく。昔みはゝ。
月ぶたゆゝ。

十五夜月晴ゝゝ
月ゝゝ露。ゝゝゝ。人こゝる見。ゝのゝもゝ。
めゝゝる。
三十ちゝ年。ゝ秋の。ゝゝきおゝふ。めゝゝ
月の。ゝゝゝゝゝ。
ゝゝふ。ゝゝゝゝ。ゝゝゝる月
ゝゝうるゝゝみせゝ。
ゝゝゝゝ。ゝゝゝ。ゝゝゝと。ゝゝの月の。
ゝゝゝゝ。
月ゝの。ゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝ。

ほうこう人。
他ぼの。えみしのくるまく。月後の。神のみかた。
ほのぼのとえらや。
人をまつ。めづらしく。櫻をまつ。ぶんゆも。
月を見せて
おもひも世はまよ。ほのぼのと。山路をよすく
白のえよ。ほりのもしいく。ぶれもぬ。船の月。
秋風のる山面の景備よ。すんく。文樓く
祢。ちるえふ。おをひくもし。どほくよ。うさけ
えれ。さくし。景。年後の雲の。ほのぼの。山の

ぼすく。重ねえし。月ですみ。ぼる。月の。清
きんをえ。山の。いるく。ふ。上の代ふ。立のぼくせ
て。櫻をく。ぼくらの。愛の。うくるの。ぶをうく
月を。ほのぼくけき。清水。ぼんぼ。ぼ。
ほのぼのと。ぼ。ぼ。月。
月人。男。

同じ歌。ある人。春山をうた

春の。山の。名をるく。ぶ。春ぶれく。すそ。海の。四年に
ふ。月をみるく。

屋上

[illegible]

[illegible]

[illegible]

照月の新玉やどりて。萩が根に。ゆくゝ白露。
てれけり。

海辺月

名高き。清き渚よ。さるあらの。ぶ[illegible]
[illegible]の。小橋。磯ぶき。[illegible]
浦の上よ。うら波の月。[illegible]
[illegible]ける。[illegible]。海人をとめ。
[illegible]。[illegible]。[illegible]。
[illegible]。[illegible]。[illegible]。
[illegible]。[illegible]。[illegible]。
[illegible]。[illegible]。[illegible]。
[illegible]。[illegible]。[illegible]。

[illegible]

[illegible]。[illegible]。[illegible]。
[illegible]。

山里の[illegible]
[illegible]。山の赤[illegible]。[illegible]
[illegible]。

山路の[illegible]。[illegible]。[illegible]。
[illegible]。

う[illegible]

草[illegible]。[illegible]。[illegible]。

ふうつくしう。
秋風のすゑ　みく尾花散代の田舟
ちうしゆ

詠田神の赤松ふまんる
白雲の。立田の山の。紅葉の。こずゑ　色の。
見てとゝ。深草の。野辺の。
雉子の。うち射しの。あて。傳女の。とそ
赤舟大　よとみづうみ　ゆきさくさ。
さあひつ。一つ　かく。吾子だへの。やむ
安永八年の九月。神嘗の清ふ

まんて。
折鉢。五年後の宮の。えのみのてよ。大宮づへ。
一ぎて。河原つへ。紅葉月。
さ月の。折ふ　かしさくもさ
よ。しく。吾君。
佐那。清ふ。河原
清ふ。月夜の。
つうそへ

秋夜
秋の。夜の。

咲ぬるものを。
なのめしぬぶむしのかへる。春の角。秋のいろ物も。
ひさしくめやも。

なごの月

おぼろなるさくらもてさびぬるとも。長月のよ。たるし。
しらけも。

秋ぐさ

春花のさかりは。春むらの。すぐるに秋をいろ〳〵
ゆ。人々のをしむ。世の中のみやびをる人の。ゆき年後よ。
雁はいとゞ。なつかしき。毎年よ。ん

らくとのまき。ら踏日のごとき春。花。楓。散の
まぶひ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
大船の。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。

秋のさくら

むすびあげ。そうとりあつめる。ちぢまるとも。秋の夕とも。
とぢめざりけり。

夕邪

底石蓋夕時ふるを
涯旦夏。度のうとも。蓋茶毒。つまとみくさ。
むすびあげる。

旅人時ふるふ
しぐれのあいとも。いとも。旅人のうぶひとをみぐるを。
ぬれとあるしら。

丘色小蓋時色
柳絮。丘色の 第ふるを。ふるのうとも。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

くるでをけく。

戀部

[illegible]

山荷衣

何さまざまのものこのまれたる。まれ
にはあれども。しかしまことにあるべし。

寄鳥

神代の御時。鹿ことに。沖つ白。かつくと。
鳴てとしらむ。ものもてまうでたる。ものの
ものとも。ものもあんと。思ふ。ぬばたまの。沖つ鳥。
五百重立さくへつ波の。八重立へるうらしまの
人なりけるかもと。

寄弓

梓弓。引てはなつ。ものとなれば。
ひとりぬるよぞ。くるしき。

寄雨

ふる雨の。ふるやの軒の。雨だれ。雨ぞ。
なほ思ひけり。

寄雷

鹿の。角かけの。雷尾の。長ゝと。なのり。おそれ
さとるらんとて。
かくれ。ものとなるも。おそれ。
まどろ。ものとなるも。おそれ。

寄電

稲妻。ひかりなくして。雷のひかり。

[illegible]

寄風

[illegible]

寄海

[illegible]

寄戰

[illegible]

寄嶽

[illegible]

寄霞

[illegible]

寄雜

[illegible]

寄濱

[illegible]

[illegible]

漂標

[illegible]

寄蓮

[illegible]

寄浦

[illegible]

[illegible]

沖つ波言とくるもへつ波の[illegible]

紐解けばもも

寄蓮

[illegible]

なびきなんとす。

寄月

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

きぐらしのすゝき。

寄梯

[illegible]人[illegible]。[illegible]小梯よ。[illegible]

[illegible]。[illegible]。

寄野

野[illegible]。[illegible]。かくしのみ。[illegible]

[illegible]。[illegible]。

寄桃

[illegible]。[illegible]。[illegible]

人[illegible]。

寄藻

他[illegible]。[illegible]。[illegible]。

[illegible]。

貴人を忘

[illegible]。[illegible]。[illegible]。

[illegible]。

みの

ぬれさつるぶの角を。はつたる。はぎを。
ぶのあるさま。

ぬの

東女の。ものの。ぬ。ある布のぬるまを。
をつれぬ。

[illegible]

[illegible]。[illegible]を。あぶ[illegible]。
[illegible]。

[illegible]

さだの浦の。あとにさぶめ。[illegible]
[illegible]。

[illegible]

[illegible]。八十の[illegible]。[illegible]。
[illegible]。[illegible]。
[illegible]。[illegible]。
[illegible]。[illegible]。
[illegible]。[illegible]。
[illegible]。[illegible]。

[illegible]

[illegible]。[illegible]。

毎年あるべきなり。

人をまつ

さよしらぬ。あるもあるものかな。

ん。ぞとうらめん

うらやま

東路の。さ夜ふけぬるやの。すゞのもの。音ずれ。

月の恋

いとゞしの。こゝろ。

恋の。ぞ。毎年の。

いふ。ぞ。

つゝのあり。

うゝ。ぞ。ぞ。ぞ。

月ぞ。

月ぞ。

幼恋

八とせ。

とひ。

う羅ろくくも。
燈と世ぬ。つくしをの。東国ぐら。さくみ多ぐ
の。初なるひも。

おの人

そくと世ふ。老古ぬく。ふるむすび。こうたの歌。
なやかまんのる。

舊恋

去年。そし。萩の古枝の。紅葉ぬむの人う。
まさまあるの。
新月。洞庭を世くふ。かくるも。みだ猫。
ものをうくする。

雜部

風

埋ぐるみ。まぐみるるぬ。初ぐこの。初ての風
み。波ぐ。ぬしも。

月

ちくぬ。新るまきる。月のみの。ものあせる。
いくせ音。

三日月

かぼしの。弟ぬ。三日月。弟るるぐ。

いとしの宮とぞ。

多賀社

ゆかしの宮社。そもよりまはるのさかづくりのみぞ。

かくらくとしも。

玉の糸

ゆきの糸そこ〳〵のきらこ。ゆきたゝ。宮はきくらと

みちをはれを。

御蔵山のうた

御蔵山。いつかのしゐ。御建。みさの金ぞけ人

うるはしかしまを。鳥もけ。なきたり。

大原の御社。大原よりうちなのし

御軍を。ゆよをひのひ。ゆるのまきや。雲しまく。

夜ぞの。うちのゆし。むぐれのをつく。岩山の神の

う。家も神まび。山のうみの山ぞ。の山をとらに

ちきいまく。地の神も。ちとびのし。女の神ちとび

のハし。宮ぐ。ゆびまを出。稚も。なれるも。宮

山。二並の山。

大見の御社。うびまく。

ちとびたまを。

綿

大原の御社。宮ぐうびたく神も

清のぶけの源氏綱をさげとらせ給へ
まかり出ずるを女房
大きみの清すぶけのよりかさしてぞ酒ぞ
給へるけり。

布

とび人のめのこぎぬをつゞくるいとぐるま
もまぐるまかしこ。

二見の浦を

言葉花。宮のおとし。天照日女の御の。大みこと。
鏡ぞうしと。倭姫神のみおしの。みつ長ふ屋鏡の

鏡。たゝもきよ。ふたをけの八しを。是をとあげきこめて。
八十澤の道をゝみ。てふ。五郎しゝんて。早雨。
二見のおとの。ゆみおしをゝ。ふなをもじて。
宮ぬ。ゆ。ゆ。浦風の。ゆ。
八洲を。大洲だのゝ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
の伊勢。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
てゆりけり。

赤氏諸をあ

樟ら手。諸石たの如。ゆ。ゆ。ゆ。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

伊勢歌集。いさゝかあ。吾妻にそほつゝあいす
へぶすと。ものぶる。おもとゝ。おもひ。おもひぶる
つゝもの。ものとぞ。ものぶ。ものぶ。吾妻ぶ。
ゝ。ゝ。ゝ。白雪のとゝ。ものとゝ。ものとゝ。
ものゝ。もん。ものゝ。ものゝ。ものゝ。ものゝ。
ものゝ。ものゝ。ものゝ。ものゝ。ものゝ。ものゝ。

里井

ものゝ。ものゝ。ものゝ。ものゝ。ものゝ。ものゝ。
里のものゝ。

紫

紫ぶる藤のあ紫。ものゝ。ものゝ。ものゝ。
ものゝ。ものゝ。

姫

大海ものゝ。ものゝ。ものゝ。ものゝ。ものゝ。
ものゝ。ものゝ。ものゝ。ものゝ。ものゝ。
ものゝ。ものゝ。ものゝ。ものゝ。ものゝ。
ものゝ。ものゝ。ものゝ。ものゝ。ものゝ。
ものゝ。ものゝ。ものゝ。ものゝ。ものゝ。
ものゝ。ものゝ。ものゝ。ものゝ。ものゝ。

清師

九のぶかのこめて都へ。ぞうしのぶれ
なるもんぞ。

都名

名すの。東いるの。郡名。今。みやこびと
まもあんど

むさくび

人げるの。芸山体の。うたてよ。なるもさくび。ぞあて
ぞ。しも。

麺

ぞうしんの。山河のよ。すむ郎の。のぼりてあれや。
とぼみしみ。

言葉山をも

大名の。る。金山の。芸。せるる。絵の河内。みさごあも
こうも。

あの所

ちくまやし。吾妻の見。つくみ。へすあれ。
大王よ。ぞ。とうて。ぞ。ぞ。郡。をまのと。足
男。よ。山。ぞ。野。ぞ。絵。芸。ぞ。うけ。絵
あき。みの。の。ぞ。ひ。ゆ。る。ぞ。撮。ぞ。みう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

藤原の[illegible]

[illegible]

山[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

南の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

もりたかのくにとよくにの。あそんの。おとと
てすてゝ。

おほの井川のほとりにて

まくらの。ゆめ。旅ねのうたゝねとなるのほの井の。
のとさやけし。

四文字

つまもこたへたるよりもみもとの。なごの水
かつらゆみとて。また所しるす。

金門自見　又其所行

如三部

神楽歌に。男の女の。女の男の。
神ゆかる。神つまべよ。ぞりとぞ。ぞりとぞ。
ぞりとぞ。

人の家にて

思ひもそめし。恋の。少松。ねふりあて。夢のうちに。
らくりの文。

信濃の国。新井の玉の。文の七夕。
みもかる。信濃つの。恋山。とべ。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

挽茶

何もかも一切べての中に茶を挽がごとし。

茶臼は茶を挽かるる。臼の表へ茶を
盛りて。臼の中の芯の上に茶を
置かるいまし。

挽い茶を出さへて
時々けて流るる。茶の粉。う受けさせべき。
茶もあるべかるべし。

沢田[illegible]世[illegible]

[illegible]山 神[illegible]

[illegible]

[illegible]

稲荷の神殿をかすめて飛ぶ雁の
ようなとしの花盛りとなりぬ。
てし。咲の盛りに。なのつ枝を
ちづ枝。さまざまにうめる。ほづえ
どまるのつめたき花を。ふふくとせ。花ちるを。
いろどりく。うぐいすもなく。なげるあ人。月
を。ほのぼのふ。ふるびたる。あれをとをえるかい
ろき。

お祝の食をも。人毋のあるあ足軽のおびたる
して。食はこうるく。ひるをあ。おぞをも文

屋。花文の長。屋敷をめぐり。月れを用い
ふかるきらのかて。かえの人のあもるきはく
てをたりのいるみらなりたるをのあて
たるるる。四のはとうりかえりそのの
月のはをもきあるをげつる。何とあぶ
しのあ。
ふ月るる。月れ。月をえてをたるの姫。
なげきすると。
月屋あぶをもはつを。秋ほ。なぶ秋し秋ほ
かつすた。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

すぐつかりのはりぬいとをとりかはせ
れてこの海ぞいへ〳〵なるものの船をひき
つなぎたるとて
やうに多すがりのもの。そのゑ長沢見のもとも
をとりたてしに。いとうるはしくるみざせきの
げうの海岸のあれはてたるみどりとなる里
ぬる。雑草ぐさなどはきらもぐつのはをとりさらる。
かくしのみなかはをうと。貴ぞのさ。ぞうぶんん。
これしるしも。
雷鳴。なかとと。空のとんだ。多く。なのふる

この間へ。をとをうさんだ。ものをよみあのふ
りうと。五月ふるあめ。土月の末いつとふ
あめ。あをあのこかてらも。ゆあつらこと。かの
大なのうし。高つのはのふ。ものの名。雷
あをけど。雲もすぎん。いろのんとおとの
ものの。多のきるものいそーん。ものををひく
ても。無おとをぶ。えけのるもの。ぶんき
つをもとぶり。なるぬ。ぬとんぶ。
五月。月よつひ。見すぐりぬと人の新をた。
牡丹。ぼたん。夫云ぶ。ぶんいとのるのあ。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いさゝかしるすなり。千百年親なるけり。

鴻雁堂之詞

薛氏器の[illegible]の[illegible]。鴻雁堂とよぶ。鴻雁堂とは。
[illegible]。雁は[illegible]常世にゐるなり。
[illegible]の丹太遠[illegible]。秋の[illegible]のゆみづるき。
[illegible]。春秋の[illegible]の[illegible]。
[illegible]。[illegible]。[illegible]。

[illegible]

[illegible]。[illegible]。[illegible]。

伯夷叔齊の[illegible]

[illegible]。[illegible]。[illegible]。
[illegible]。[illegible]。[illegible]。
[illegible]。[illegible]。[illegible]。

べかりしも。たゝかまき神のみそ〳〵をはらへ
そむかのづゝあきくんとゝりるをしまと。
をりもをしたもしさをひの長柴なる下葉日ゝけも
をえぬかけも。

無名ふ名づくる人

ひのもとも岩ぞのぞりつゝ。いまゝ人の名り
るゝひておのれがゝるを。中世氏ふ名をと。
ひとを海矣の大川のくよ拾ひあるゝ石ゝりけも。
おのづのゝふるゝとゝ少の祝をゝて。身命
の纏へゝる。ゆゝとゝるゝ海ゝふそ。のゝけと。

神宮ゝ思ひけ紀も。四ゝるゝひとゝ。鎧人
ゝきゝて久若ゝらふ

神尾範寿誌

神尾範寿。父者、、。母者、、氏俗ニ者右源太
止称利。今年天明五年六月四日。齢廿九ニ而
身死。奴。範寿已ニ示。淡亘皇朝ノ古事ヲ学
信利已常ニ思信良漢人迺所謂天命ニ云者曽。
最モ不審ス。天ニ麻佐志久心志有婆。善ニ福ニ
悪ニ禍有ル。然有奴モ多者。如何曽也思利範
寿我如ス露。穢ス心無モ。如是若欠身死礼留

是将福津日乃神廻福尓之言毛悪文盗賊
得収理詰有悪。範壽此理乎都良ミ尓思
得婆宛路毛宇良安久退斧物曽度荒木田
神主久老云。

奇者と思ふなる何
久のぶ代の。恵を蒙を。とし文をなし。ぬるまの
地を。海山をとも。ゆやまの女を。かるて地ふたら
ゆえなること。いつ迄ぬるなの。兎也。
さしぶくふあ。文まじくも。やうて化のくたら
ハとそ。ぬるなるゆふ。山ゆたうこと。
植

土ひのそくのいてきを。うをもを。ゆふ虫ゆみ
移る色ゆすく色獣たるがくなつけば
かる蓋ふ。ゆふ寿ふきハ。ゆ東及よ
とるひく。已ゆ月のかし。四月ゆまて。
集ふる石ら。ゆさ猿ゆを。ゆを。
ゆをつくまなひくゆ。自らなる。文まて。
なのづのめるそかいらのなる。清水いなをけて。
四ゆるふ。ゆまそ。奇ま跡をいとへしくんをさら
くかくくくくとしりくく。後年るゆ
とゆ。文ゆ。ゆくまよくくゆ遣ゆ。ゆくくゆ

[illegible]

分ちかくるさまゆゆしきのそうふもまぶそし。ひめかいるる。
沸出くるをうること。
すくもし。忌ぶ名をかぶ。このくしたも。をのづのなる。
ゆやをうるる。

人の見とゆるのもとを飢よりて飢
飢與飢与。汝者人不似物隨。言巻穴尓隠者。
神祖乃沸児逆数尓入坐本門號者天乃吉菅
曽止戈八知是者最貴久優曽迷乃磐言尓可
高文有祢乃形乃長良流有此家主乃心廻寛
利其形乃圓奈留波此家主乃心廻柔流奈利又汝
愛留ニ報恩水波能女魂合坐。軽の見突者
乃災主せ受家良毛常之信守護信祢。百不足五
十槻乃園之阿留自。人老言祝須止云。

天明五乙巳年十二月四日終業